CESAプログラム
『祖父川の自然と町をつなぐ 橋梁工事ウォッチング』

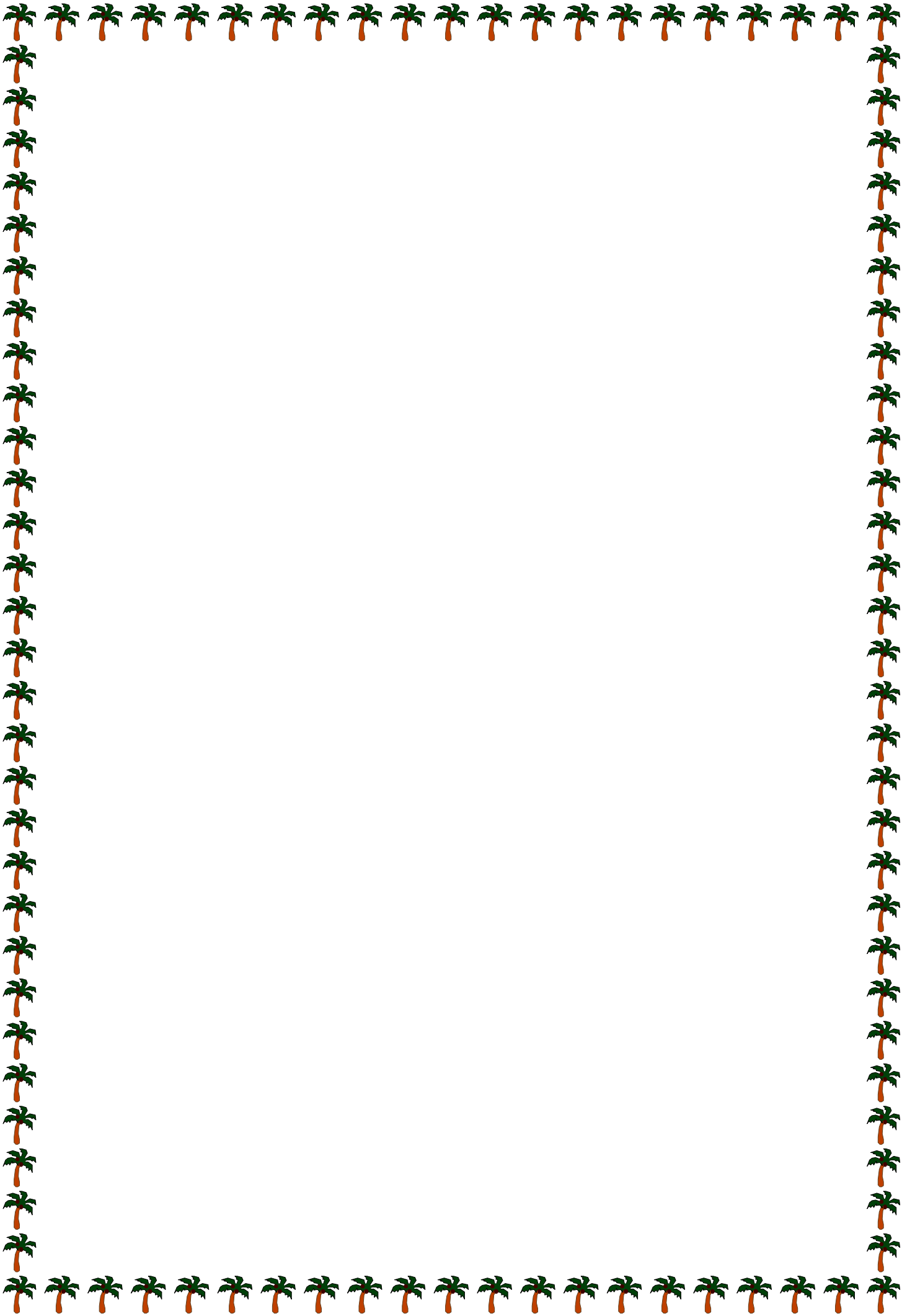
竜王IC周辺地区　岡屋交差点改良　祖父川大橋橋梁下部工事　作業所

日時　　平成 26 年　6 月 17 日(火)　AM10:00～12:00

竜王町立　竜王西小学校　3 年生、4 年生　　80 名

"美しい自然との共存"

高島鉱建　株式会社



発注者：滋賀県土地開発公社

現場名：平成 25 年度　開第 5 号

竜王IC周辺地区　岡屋交差点改良　祖父川大橋橋梁下部工事

施工場所：滋賀県蒲生郡竜王町岡屋

工期：平成25年11月29日～平成27年　3月20日

工事概要：逆T式橋台　　2基

張出式橋脚　　1基

場所打杭工　16本

主催：高島鉱建　株式会社

共催：NPO法人CESA

協力：滋賀県土地開発公社、竜王町教育委員会、NGO環境計画市民会議

今回の工事とCESAプログラムの趣旨

地域活性化の施策でもあります滋賀竜王工業団地の新規造成にあたり、周辺交通網の整備の一環として祖父川に架かる橋の増設工事を行っております。

企業誘致で交通量が増加することを見据え、また交通網が整備できている利便性も誘致する上でとても重要な判断材料となります。

今ある自然（川）の環境を壊さず、自然にやさしい施工を行い、自然と町をつなぐ架け橋とすべく、工事を進めております。

祖父川の生態や、歴史をともに学び、ともに成長していける学習を心がけ、環境プログラムの構成を考えております。

この CESA 環境プログラムを通じて、自然と向き合い、共存できる環境づくりを創造し、地域の方々と一緒に勉強できることに感謝し、これからも、建設業として活動していきたいです。

竜王町立竜王西小学校に集合し、CESA 環境プログラムは、スタート!!

今回の CESA 環境プログラムの開催に際し、当現場の現場責任者でもあります高島鉱建㈱古本次長より開会のあいさつが行われました。

少々子供の対応が苦手な古本次長、緊張し、カチカチのスタートです。
作業現場での安全に関する注意事項の説明があり、いざ、作業現場へ!!

『百聞は一見にしかずということで、現場へ移動!!』

バスに乗り込み、作業現場へ移動。
スタート早々、場所の取り合いで先生に叱られてます。

作業現場へ到着。
安全通路を移動し、3班に分かれてプログラムがスタートします。

第1班は、現在施工している祖父川大橋の勉強を高島鉱建㈱宮城主任が説明。
どうしても、専門用語が出てきて、子供たちは・・・。
同じ年代の子供がいるお父さんですが、
子供たちに目線を合わせることの難しさを改めて勉強しました。

続いて、NPO 法人 CESA 環境マスターの今村先生より、祖父川周辺の生態系の勉強、水についての勉強をしました、

このCESA環境プログラムは、参加してくれている小学生だけでなく、普段何事もなく仕事をしているわたくしたち建設業者も、川の歴史や生態を一緒に勉強することで、橋や堤防工事の趣旨や工夫点を再発見する機会でもあり、一緒に勉強をしております。

橋に使用される鉄筋の太さや、コンクリートの特性、環境に配慮した施工方法を聞き、学習ノートに書いていきます。

第2班は、建設機械の乗車体験！！
間近で建設機械（バックホウ）を見て、
その大きさにびっくり。
子供たちは、『初めて乗った～』、『動い
たらどうしよう？？』など心配して
ましたが、1人が乗り出すと、つられて
興味本位で乗っておられました。

建設機械にも死角があります。その死角
を少しでもなくすように最新機種には、
バックモニターが装備されており、安全な
作業ができるようになっております。

建設機械へ乗車するときは、ヘルメットを
着用!!
『早くかわってよ～』、『今、乗ったばかりや
ん～』など、順番待ちで大賑わい！！

前についているものが気になり、質問。
『これは、排土板といって、整地する時
に土を押すためのものですよ。』と子供
でも分かるように説明！！

続いて10tダンプトラックの運転席にも実際に乗車し、ダンプトラックの死角（ミラー等でも見えない部分）を体感してもらいました。

『おーい、僕の姿、見える？？』という質問に、『どこ～？？　あっ!!見えた～』と返答。『運転するところが高いからよく見えると思ったけど、見えない所いっぱいある～。

お気に入りの彼とツーショット♡
この彼、クラスの人気者で、一緒に乗りたいと女の子の順番待ちができるほど。
これも、いい思い出になるといいですね。

リアルな質問が飛び交い、ダンプトラックっていくらですか？？
『約1，500万円ぐらいします』と回答。
子供たちは、びっくりしていました。

この試みは、毎回実施しているのですが、普段の生活でダンプトラックは、町を行き交ってます。
この死角があることがわかっていることは、交通安全にもつながりますし、子供自身が交通事故に遭わないためにも、いい体験になっていると思います。

『エコバックつくりに挑戦』

第3班は、長浜市を中心にイラストレーターとして活躍されている早瀬愛紗さんにご教授をいただき、エコバックつくりに挑戦しました。

まず初めに、エコバックつくりの説明を聞き、無地のエコバックがみんなに配布されました。

さて、どんな作品が出来上がるかな？？

いろいろなスタンプやマジックが用意されており、世界に一つだけのエコバックを製作。

子供たちの個性が発揮されます。

ローマ字を習っており、アルファベットをつかって名前をスタンプしたり、大きな絵を真ん中に書く子供も。

最近の人気は、『妖怪ウォッチ』らしい。

みなさん、上手に描けてましたよ～

滋賀県土地開発公社よりこのプログラムに参加していただきました佐橋さんも、エコバックつくりに挑戦!!　子供たちにいろいろ突っ込まれながら、川と橋の絵を描いておられました。

限られた時間でしたが、真剣の眼差しで
すごい集中力!!
先生も、いつもこれぐらい集中して授業
を受けてくれよ～とつぶやいていました。

こんな作品が出来上がりましたと、みん
なで見せ合いっこ。
目を輝かせ、先生に自慢していました。

このエコバックつくりは、もちろんエコバックを使用することで、不要なお買いもの袋の削減につながりますが、それだけが目的ではありません。限られた時間で、多くの人が少ないスタンプやペンを使用します。
次に使う子が困らないように使用後は、残っているインクを取り除いて元の位置へ戻す。使いたいスタンプを譲り合うという心、相手を思いやる心も一緒に育んでおります。

『全員で集合して』

主催者を代表いたしまして、高島鉱建㈱桑原社長より、ご挨拶。

梅雨の季節で、天候も危惧されましたが、こうやってプログラムが無事に終わったこと大変うれしく思っております。

このプログラムは、私たちが子供たちに勉強の場を与えているつもりですが、逆に自分たちが子供たちより教わることも大変多いと思います。

竜王町にできるこの滋賀竜王工業団地は、竜王町の発展に大きな役割を担っております。近い将来、この橋も完成し、通ることができます。自然と町を結ぶ懸け橋となります。今日、体験したことを忘れずに、これからも勉強を頑張ってください。

本日は、ありがとうございました。